令和７年度 学校教育自己診断結果分析

生徒・保護者・教職員の評価が一致している点

＜工業教育の充実＞
工業教育に関する質問項目について、生徒 86.0%、保護者 86.5%という高く評価されているが、教職員 71.9%に留まっている。
【分析】
生徒・保護者共に評価されており次年度以降も新たに導入された実習設備を用いて授業内容の更新等に取り組み、より一層充実を図る。
各系で研修会を企画し資質向上を図る。

＜手厚い生徒サポート＞
教育相談に関する質問項目において、生徒 86.9%、保護者 85.6%という高い評価は、教職員 87.7%という自己評価と一致している。
生徒指導に関する質問項目において、生徒 77.5%、保護者 88.6%という高い評価は、教職員 85.9%という自己評価と一致している。
いじめ対応に関する項目において、生徒 85.8%、保護者 85.6%という高い評価は、教職員 84.2%という自己評価と一致している。
【分析】
いじめ対応及び教育相談体制、生徒指導について、保護者・生徒共に受け入れられ機能している。教員が一丸となり即応体制が取れるように維持していく。

＜キャリア教育の充実＞
キャリア教育に関する質問項目において生徒回答 87.5%及び 84.4%、保護者 91.7%という高い評価は、教職員 86.0%という自己評価と一致している。
【分析】
本校のキャリア教育について、生徒・保護者共に評価されており本校が培った指導が生かされている。生徒、時代に即して指導を改善していく。

＜情報発信とコミュニケーション＞
情報発信に関する項目について、生徒 81.7%、保護者 95.0%及び 98.2%という高い評価は、教職員 80.7%という自己評価と一致している。
【分析】
学校から保護者・生徒への情報提供・伝達が円滑に行われている。次年度以降も継続していく。

生徒・保護者・教職員の評価に差が見られる点

＜授業の学び方に対する認識＞
授業の学び方に関する項目について、教職員 93.0%と高い自己評価をしているが、保護者 71.7%となり昨年度より-4.7 低下している。しかし、生徒 78.1%と昨年より 1.6 上昇している。
【分析】
教員・生徒と保護者との乖離は、保護者が実感できる結果に結びついていないことが原因と考えられる。
保護者が直接、授業や発表会等を見る機会を増やしていく。

また、相互授業見学等を通じて教員の授業力を向上と、生徒自身が「どのように学ぶか」を意識させるカリキュラムマネジメントを並行して進めていく。

＜施設・設備に対する意識＞
生徒回答で唯一、昨年度よりマイナス（昨年度比-2.2 ポイント）評価であったのに対し、教職員回答では昨年度比+14.5 ポイントと大幅に向上している。
【分析】
教員の評価は、事務室が中心とした校内施設・設備の修繕に積極的取り組んだことを評価している。
しかし、生徒が評価している内容は、教室内のごみ箱の状態、教室内の汚れ、廊下の掲示物等であるため、生徒目線での具体的な環境改善が求められている。
そのため、生徒指導において５S を基本に教室・実習室の整理・整頓、清掃を躾ける。また、廊下・実施室の変色や剥がれかけている掲示物等について撤去・更新を行う。